



【韓国】 総合指数は週間で1.3%安と5週ぶり反落、今週も神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.3%安と5週ぶりに反落。節目の1900ポイントを挟んだ一進一退の展開だったが、この節目を超える水準では上値の重さが目立った。前週まで4週続伸した後とあって、利益確定売りが重荷。週明け20日にこの水準を割り込み、21日は続落した。原油相場の急落が嫌気されたほか、「金正恩氏が重体」との報道を受けて21日は一時下げ幅を3%に拡大した。22-23日は韓国政府の産業支援策や米株高、原油先物価格の上昇を好感して1900ポイントを回復。国内の20年1-3月期GDPのマイナス成長に対する反応は限られた。24日はリスク回避の動きが再び加速し、終値で1900ポイントを守れなかった。今週も海外市場や原油相場をにらみ神経質な展開か。経済指標では鉱工業生産や貿易統計などが発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は0.2%高と反発、今週は原油相場や欧米株価次第の展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.2%高と反発。NY原油の暴落を受けて週前半に大きく下落したが、原油相場が落ちついたことで週後半に持ち直した。NY原油が史上初のマイナス価格となり、ブレント原油は21日に20ドルを割り込んだ。RTS指数は21日に前日比5.3%安と大幅に続落。ただ、22日はブレント原油が16ドルを割った後に20ドルを回復したことで、RTS指数は5.3%高と大幅反発。原油相場が続伸し、欧米株も上昇したことで、RTS指数は23日に3.2%高と大幅に続伸し、週間でも小幅に上昇した。個別では小売りのマグニトや金融のズベルバンク・オブ・ロシアが下落した一方、エネルギーのロスネフチやルクオイル、資源のポリメタルが上昇し、指数を押し上げた。今週も原油相場や欧米株価次第の展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.6%安と4週ぶり反落、今週は神経質な展開か

か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で1.6%安と4週ぶりに反落。NY原油の暴落を受けて米国株が大きく下落したことでVN指数は21日に急落したが、その後は原油相場が落ち着き、欧米株が反発したことで下げ幅を縮めた。週を振り返ると、20日は上昇し、6日続伸となったもののNY原油先物5月限が史上初のマイナス価格に落ち込んだことで20日のNY市場ではダウ平均が600ドル近く下落し、21日のベトナム市場ではVN指数が3.5%安と大幅に反落。その後は原油相場が落ち着き、VN指数も24日まで3日続伸したが、21日の下落分を埋め切れなかった。個別では飲料や鉄鋼の関連銘柄が上昇した一方、不動産、金融、エネルギーといったセクターの株が下落し、指数の重しとなった。今週は外部要因に左右される神経質な展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 3.0%安、断食月に伴う移動制限政策を嫌気

ジャカルタ総合指数は週間で 3.0%安と続落。週末の反落が響いた。週初の 20 日は 1-3 月期の外国直接投資が前年同期比 9.2%減少したことが嫌気され、指数は終値で前営業日比 1.3%安と反落。22 日はテレワークによるデータ量の急増を受けて通信株が買われ、前日比 1.5%高と 3 日ぶりに反発すると、23 日も続伸した。ただ、24 日は政府がイスラム教の断食月（ラマダン）に伴う帰省を抑制する目的で、大規模な移動制限を開始したことが売り材料となり、前日比 2.1%安。4500 ポイントを割り込んで引けている。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が指数を左右しそうだ。1 日はメーデーのため休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 3.7%安、学校と職場の閉鎖を 6 月 1 日まで延長

ストレーツタイムズ指数は週間で 3.7%安と 3 週ぶりに反落。週初から 5 日続落と軟調だった。20 日は工業関連株が下げを主導し、指数は 3 営業日ぶりに反落。22 日は学校と大半の職場の閉鎖が 6 月 1 日まで延長されたことで経済の先行き不透明感が強まり、売り優勢となった。23 日は 3 月のコアインフレ率が前年同月比で 2 カ月連続のマイナスに落ち込んだ影響で売られると、24 日は同月の鉱工業生産が医薬品の急増で前年同月比 16.5%増と好調だったものの買い材料にならず、下値を広げた。今週は国内の経済イベントが少なく、米 GDP 速報値や中国の公式製造業 PMI が焦点になる。1 日はメーデーのため休場。

▼指数チャート

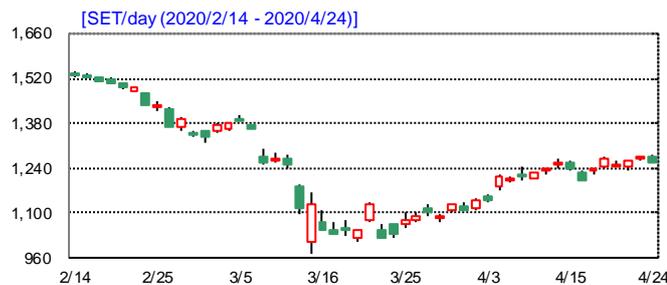


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.6%高、国王が 586 億米ドル規模の景気刺激策を承認

SET 指数は週間で 1.6%高と 4 週続伸。週初の上昇が指数を押し上げた。20 日は国王が 586 億米ドル規模の景気刺激策を承認した効果で買われ、指数は終値で前営業日比 2.2%高と続伸。21 日は 5 月限の NY 原油先物価格が史上初のマイナスに落ち込んだ影響で前日比 1.1%安と反落したが、22 日には買い戻された。23 日は前日の NY ダウが経済活動再開への期待や米イランの対立再燃による原油価格の回復を受けて反発した流れを引き継ぎ、続伸。終値で 7 週間ぶりの高値を更新した。ただ、24 日は反落して引けている。今週は 29 日に 3 月の鉱工業生産が発表される予定。1 日は国民労働日のため休場となる。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.7%安、今週は NY ダウ続伸の効果に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 2.7%安と 3 週ぶりに反落。買い材料に乏しく軟調な値動きだった。週初の 20 日は中国人民銀行（中央銀行）が政策金利を 2 カ月ぶりに引き下げた効果で買われ、指数は続伸。一方、21 日は前日の NY ダウが原油価格の急落を受けて下落した流れで前日比 2.2%安と反落した。その後は 23 日までほぼ横ばいで推移したが、24 日はムヒディン首相が前日に国内の活動制限令の 3 回目の延長を発表し、5 月 12 日までとした影響で下値を広げた。今週は国内の経済イベントが少ない中、前週末の NY ダウが 3 日続伸したことは株式相場の追い風か。1 日は労働者の日のため休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。